

名前：

雑誌と、このものには、いくつかの種類がある。  
 の、一概には云えないが、現行の形の新聞  
 は必ずしも要するとは思えない。  
 まず一つに、インターネットが発達する現  
 在、新聞がニュースを伝えた早さはインター  
 ネットに大いに劣る。多くても朝と夕とにし  
 か情報を運べる、しかも印刷配達作業に一度  
 入るとその途中に入ってきたニュースは届か  
 ないからである。それならなぜテレビの台  
 頭にもかかわらず新聞がその役目を終えな  
 ったのかと思うかもしれない。それはテレビ  
 と新聞の運ぶもの、映像か文字か、のみなら  
 ず、新聞があれは少し過去のニュースにもさ  
 かのほけりから、このものもあると考える  
 れる。しかしその利点もインターネット上に  
 情報がストックされてしまえば同様のことが  
 できてしまう。  
 二つ目は経済性の問題である。毎日発行さ  
 れる新聞はおよそ数百万から数千万部。  
 さらに一部が三十ページあり、これもまた

紙やインク代含む印刷の諸経費、配達の手間  
 なにか大幅に省ける。大量の紙を他のことに  
 使用できるようになるので環境にも良いこと  
 が期待できる。  
 もし雑誌や新聞がまた必要だと言う人がい  
 たら、その人は情報の正確性を理由に挙げた  
 かもしれない。インターネット上に書いてあ  
 ることに今一步信用が置けない、ということ  
 だ。確かに適当に語句を入れて出てきた記事  
 が正しいか、公平かを知ることはそれほど簡  
 単ではない。しかし見るサイトも新聞社のニ  
 ュースサイトにするのはどうだろうか。有料ニ  
 ュースサイトに契約することにより従来通り  
 の内容の記事が得られるのなら反社者のこ  
 の懸念はなくなったのではないだろうか。  
 以上の理由により、今日我々が「新聞」と  
 呼ぶものは必要ではなくなり、インターネッ  
 トを用いた別の体系によりニュースを得るこ  
 との方が便利になっていくだろう。